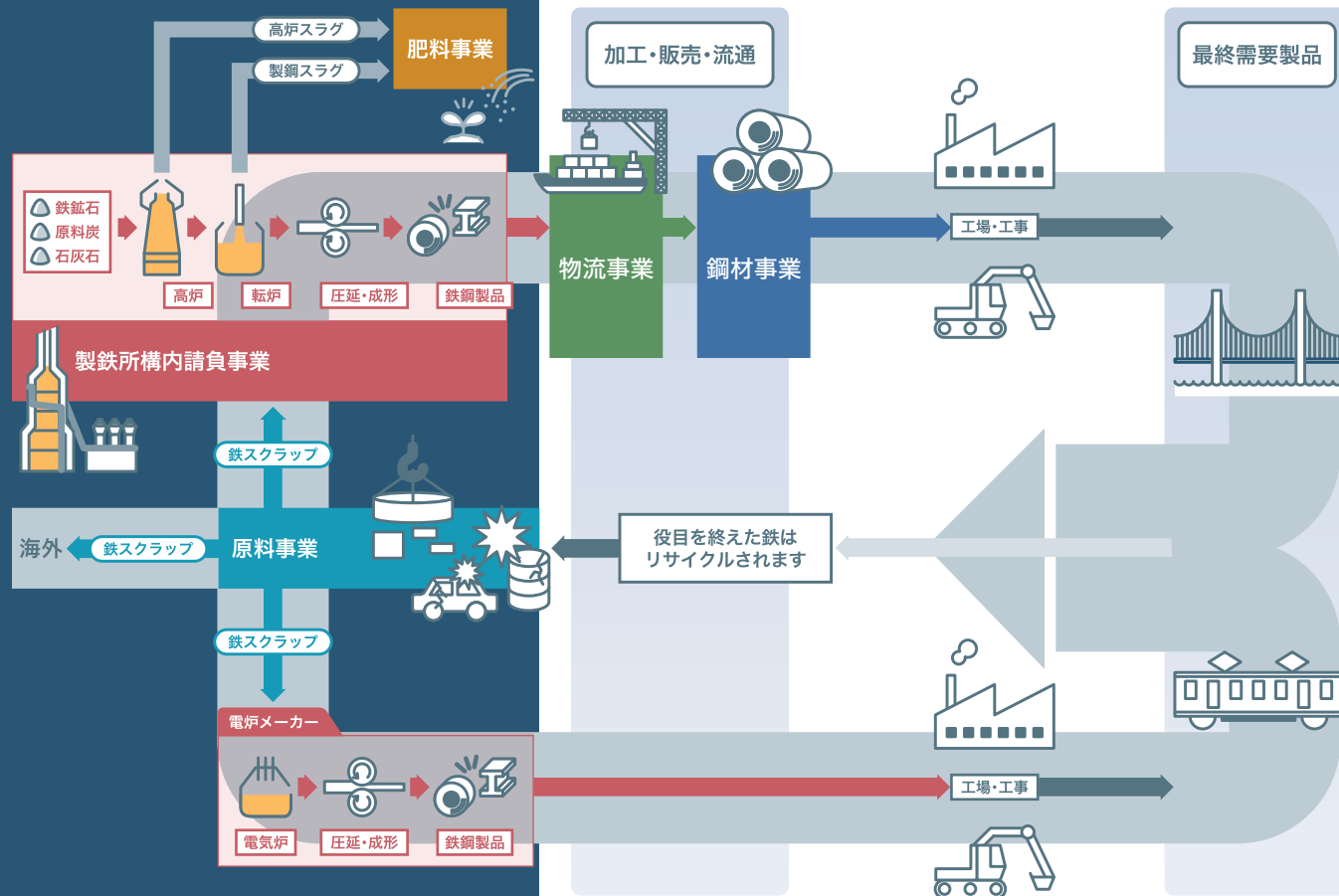


INDEX

- 産業振興の事業フロー 1
- 産業振興グループ企業理念 2
- 各事業の紹介
- 原料事業 3
- 製鉄所構内請負事業 5
- 物流事業 7
- 鋼材事業 9
- 肥料事業 11
- 環境への取り組み 13

原料事業を基軸に、 製鉄～流通のあらゆるフェイズに 新たな価値を。

産業振興株式会社は、鉄スクラップの仕入れ・リサイクルをコア事業に、製鉄から加工・販売まで、鉄流通のあらゆるフェイズに携わっています。役目を終えた鉄を再び製鉄所に還し、また新たな鉄鋼製品として世の中に送り出す。その一貫した事業サイクルの中で、新たな付加価値を生み出し、お客様の満足さらには社会に貢献しています。「鉄の入り口から出口まで」…私たちは、ダイナミックな視点から「鉄」の価値を高め続けています。



産業振興株式会社
代表取締役社長 米田 寛

産業振興グループ企業理念

基本理念

私たちは 鉄鋼の製造販売に関わる事業並びに
鉄リサイクル事業を通じて 循環型社会の発展に貢献します

経営方針

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 「安全は全てに優先する」という価値観を全従業員で共有します 2 お客様から満足と信頼を得られる高い付加価値を生む事業を展開します 3 現場・現物を大切にし 技能・技術を深化・伝承させ 現場力向上への挑戦を続けます | <ol style="list-style-type: none"> 4 人材育成が企業の継続的発展の基礎であると捉え「人を育て人が育つ」企業風土をはぐくみます 5 従業員の充実した生活を実現するべく 皆がやりがいをもって元気に働ける職場環境をつくります 6 コンプライアンスの徹底により 公正・誠実な業務遂行に努めます |
|--|---|

行動指針

「産業振興グループ社員に期待する仕事に取り組む姿勢(態度)」を表した 産振スピリッツを実践します

- 1 ルールを遵守し 気概と誇りを持って仕事に取り組めます
- 2 一人ひとりの人間性を尊重し 風通しの良い職場作りに努めます
- 3 常に人のことばに耳を傾け 自らが当事者としてなすべきことを行います
- 4 今の仕事の結果に満足せず より高い目標に向かって挑戦しつづけます

見えない価値を見抜き、 新たな資源へと変える確かな眼力。

● 私たちは、産振の「目」でありたい。

「都市鉱山」とも呼ばれるほど、鉄スクラップは全国各地で発生し蓄積されています。これらの資源としての価値を見抜き、仕入れ、扱いやすいよう加工し、製鋼原料として製鋼メーカーに納入すること。それが、産振のコア事業となる原料事業です。常に付加価値の高い鉄スクラップ原料を安定供給するため、全国各地に原料事業拠点を設け、集荷・加工・備蓄を実施。日本の貴重な資源として、確かな目でその価値を高めています。

全国に広がる事業拠点

北海道から九州まで、全国をカバーする事業拠点を整備し、鉄スクラップの安定的な供給・流通に貢献。

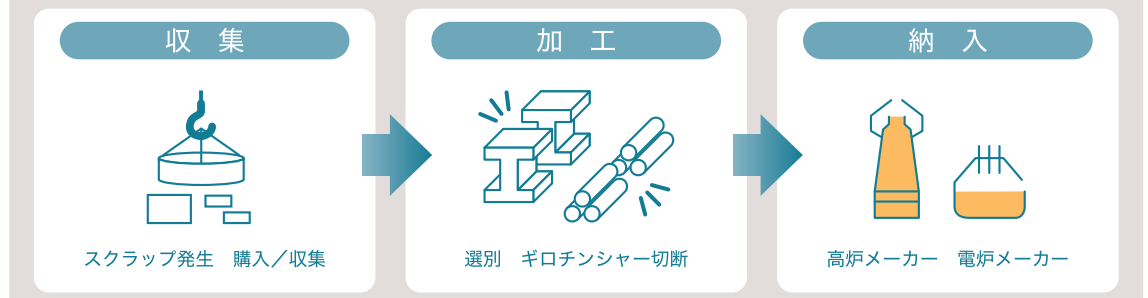
高性能な加工・選別設備

業界屈指の高性能かつ高馬力な設備を導入。鉄スクラップを成分ごとに選別・加工し、資源としての品質を向上。

グローバルな視点

世界の動きに伴い価格変動する鉄スクラップ。その価値を見極めるには、世界情勢を読むグローバルな視点が重要。

原料事業のプロセス



私は生まれ変わります

ひとつの役割を終え、製鉄所に還る時がやってきました。
鉄スクラップはそこで溶解され、新たな製品へと生まれ変わり、
また再び、社会へと旅立っていくのです。
果たして次は、どんな役割を担うのでしょうか？
もしかしたら、あなたの未来を支えているかもしれません。

Working Scene



リフティング・マグネットによる荷卸しと選別を行っています。



ギロチンシャーにより、インサイズ(炉前サイズ)に切断加工しています。



選別されたスクラップを高炉・電炉メーカーへお送りしています。

Manufacture

私は未来を背負っています

製鉄所の転炉や電炉の中で、鉄スクラップは熱せられ、新たな命を吹き込まれます。そして、生まれたての鉄(溶鋼)として、数多くの工程を経ながら、次なる役割へと進んでいきます。その鉄はやがて鋼材となり、数々の加工を経て最終製品へと姿を変える。それを使う人々の未来をしっかりと受け止めながら。

日本の鉄づくりを支え続ける。
あらゆる工程に最高水準の技術と推進力を。

● 私たちは、産振の「心臓」でありたい。

日本製鉄の北日本(室蘭地区、釜石地区)・名古屋・瀬戸内(広畑地区)・九州(大分地区)の各製鉄所において、高炉付帯設備メンテナンス、鑄鉄機オペレーション、製鉄所構内スクラップヤード諸作業、転炉スクラップ装入、鋼管製造、線材製造、スラグ処理など、製鉄所内で発生する実に多くの業務に携わる部門です。世界最高水準と言われる日本の鉄づくりを支える力であると同時に、原料事業と両輪を成し、産振の事業を展開していくための強力な推進力を生み出しています。



Working Scene



ギロチン設備、シュレッダー設備、プレス設備を利用し、スクラップの加工、選別、転炉挿入作業を一貫して行っています。



高炉から取出した溶鉄を再使用し易い形状の鉄原料とする為、鑄鉄機に溶鉄を流し型鉄を作っています。



加工・精整された製品(パイプ)を自動結束機にて結束しています。

スピーディかつ高品質なまま安定供給。
しなやかな対応力で物流を支える。

● 私たちは、産振の「筋肉」でありたい。

お客様の大切な鉄鋼製品をお預かりし、ニーズに応じてタイムリーにお届けするためのインフラ的事業です。産振は、横浜と仙台にバースとヤードを構える業界有数の企業であり、日本全国はもとより、海外まで安定した供給を担っています。船から製品をクレーンで陸揚げし、倉庫内に搬入・保管、お預かりしたお荷物は品質管理を徹底し、お客様のお手元まで納期通りにお届けする運送業務まで「一貫した物流サービス」をご提供しております。

私はやがて飛び立ちます

見た目こそ、重く、大きくはありますが、
実のところ、意外にフットワークは軽いのです。
日本全国、北から南へ。さらには海外まで。
あらゆる地域の、様々なお客様のお役に立てる、
そのときのために、倉庫で美しいまま眠っています。

Warehouse

省力化システムを
いち早く導入

産振では、バーコードによる
入出庫・置場管理システムや、
搬入、積み込み機器など、省力化
のためのシステムや設備を他社に
先駆けて導入し、業務効率化を
積極的に推進。

2つの大規模港に
ヤードを展開

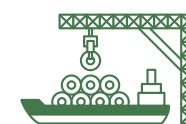
横浜、仙台、2つの港にバース
とヤードを展開。同業他社には
ないこの強みを最大限に活かし、
品質管理、タイムリーかつ安定
した供給を実現。

技能育成・研鑽の場

一人当たり平均7~8種もの
様々な技能資格を取得。ほぼ
すべての重機類の操作技術を
体得できる。

物流事業のプロセス

港湾荷役



クレーンでの陸揚げ 倉庫への搬入

保管



在庫数/出荷数管理 品質管理

運送



積み込み タイムリーな配送

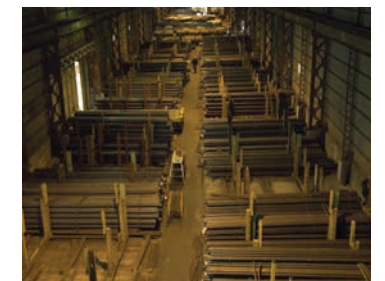
Working Scene



大型クレーンを使い、
本船から鉄鋼製品を吊り揚げます。



1個当たり10~20tあるコイルを
整然と丁寧に置いていきます。



棒鋼専用倉庫では鋼鉄製保管枠を用いて
品質保全を図ります。

積み重ねてきたモノづくりの技術を循環させ、
様々な産業分野に高品質を送り届ける。

● 私たちは、産振の「血潮」でありたい。

日本製鉄やグループ会社・関連会社で製造される鋼材をベースに加工・販売を行う事業です。お客様ニーズに直接向き合うこの事業において、何より重要なのはパートナーとしての信頼感。ニーズに応じて最適かつ高付加価値な製品を生産することはもちろん、販売品種もボルト類から厚板・薄板・条鋼類・土木加工製品まで幅広く対応することで、建築・土木関係、家電、建材メーカー他、様々なお客様から信頼のお取り引きをいただいています。また、こうしたビジネスを通して得た最前線情報を現場に戻し、産振の全事業に展開していくという役割も担っています。

製造業のすべてが
見える人材育成の場

仕入れから、加工、納品まで一貫して対応。品質や納期管理の厳しさや、コスト削減の取り組みなど、製造業に必要なセンスを磨けるフィールド。

他事業部とのシナジー効果

お客様ニーズの動向といった情報はもちろん、加工プロセスでは必ず発生するスクラップを、再び原料事業へ還流させるなど、シナジー効果を最大限に発揮。

小ロット・短納期対応

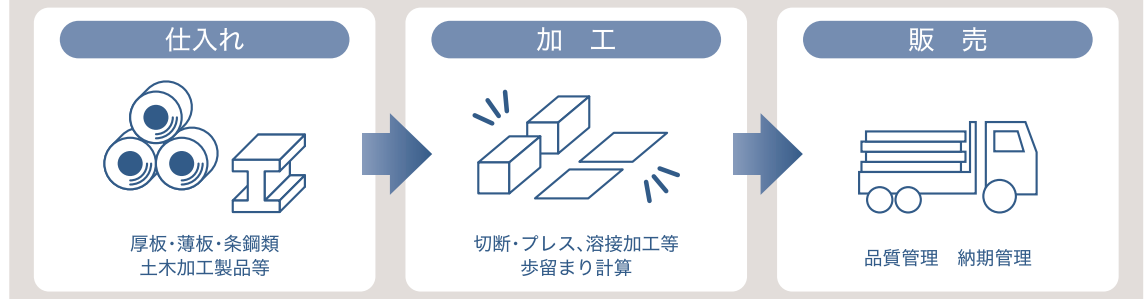
独自の加工ノウハウにより、小ロット・短納期オーダーなどお客様のあらゆる要望に柔軟に対応。

Steel

私は姿を変えていきます

さあ、いよいよ次なる一生が始まるうとしています。
ここから、数多くの人の手により様々な加工が施され、
やがて、目に見える最終製品へと姿を変え、
社会の中に、家庭の中に、旅立っていくのです。
あなたとの出会いの瞬間も、すぐそこまできています。

鋼材事業のプロセス



Working Scene



溶接は炭酸ガスアーク溶接ロボットにより行います。



メトロデッキは土木工事の仮設床に使われています。



コイルは切断され、板状の製品となります。

自然からもらった恵みは、自然に還す。 製鉄業の新たな役割を切り拓く。

● 私たちは、産振の「心」でありたい。

製鉄のプロセスの中で発生する副製品、スラグは主にコンクリートやアスファルトの材料として商業利用されています。産振では「土から得た恵みは、土に還す」という発想から、スラグの新たな再利用方法として、肥料事業も展開してきました。数十年に渡り、研究・改良を繰り返し、独自のノウハウを蓄積しながら開発された製品はお客様からも高く評価され、現在、JAグループを通じて農家で利用されています。

健康的な国土 農業の発展に貢献

作物を育てるのではなく、土を育てるための肥料。酸性化し養分を失った土を中性化し、作物の生育環境を改善。

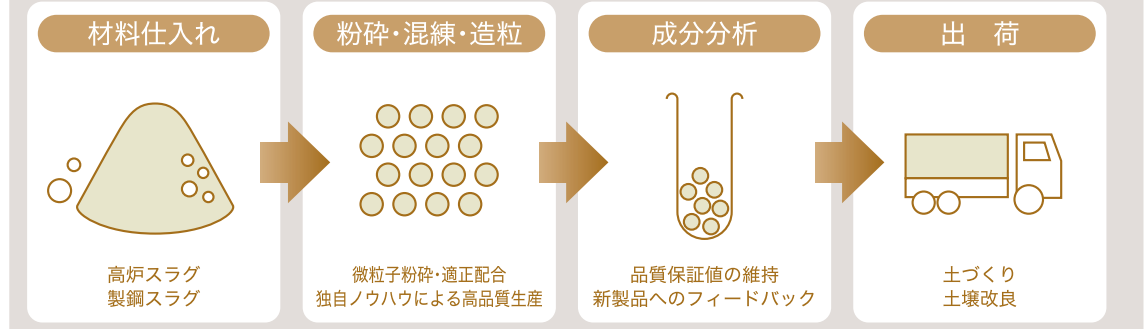
独自ノウハウによる 高い品質

他社に比べ、材料をより微細化できる粉砕機、成分の相性を見極めた繊細な配合による均質化など、独自ノウハウにより高品質・高付加価値製品を提供。

高い評価を受けた 独自製品

製鉄プロセスの中で生まれた新たな副製品、製鋼スラグの研究から、独自新製品も開発。通常の肥料の半分の量ですむ高い溶出力により農業の大幅な省力化に貢献。

肥料事業のプロセス



Working Scene



肥料の原料となる製鋼スラグです。



肥料を梱包している様子です。

製品ラインアップ



私は土にも還っています

鉄鉱石、石灰石などの天然鉱石から生まれてきたものだからこそ、土の中に還るのが、実はいちばん自然なのかもしれません。

橋梁や鉄道、自動車、家電として、華やかに活躍する鉄。

その一方で、鉄を還元したあとの副製品として生まれてくるスラグも、実は、日本の土を蘇らせるという大切な役割を担っているのです。

Fertilizer

リサイクルを基軸にした、 産振と環境の幸せな関係。

高炉によって鉄鉱石から鉄を還元し、鉄鋼を製造する過程では大量のCO₂が発生します。一方、鉄スクラップを資源として鉄鋼を製造する場合、鉄鉱石からのプロセスに比べ、CO₂排出量は約1/6に抑えることが可能となります。現在、鉄鋼は製品となるまでに、その約3割が鉄スクラップに、さらに役目を終え廃棄される物品の58%はスクラップとなります。こうしたスクラップを貴重な資源と捉え、流通・再利用していく産振の事業は、まさに地球環境への貢献活動そのものともいえるでしょう。

● 鉄鋼生産副産物の資源化

地球から得た恵みは、土にも還す。
産振では鉄鉱石から鉄を還元し吹錬した後に残るスラグを素材に肥料
事業を展開し、農業の発展に貢献しています。



会社概要



名称 産業振興株式会社
The Sangyo Shinko Co.,Ltd.

所在地 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町
三丁目9番地2
BIZCORE神保町5階

創立年月日 昭和12年9月1日

資本金 3億9千万円

主たる株主 産業振興社員持株会
日本製鉄株式会社
三井住友信託銀行株式会社
清水鋼鐵株式会社

株主数 15名(2023年3月31日現在)

従業員数 1,390名(2023年3月31日現在)

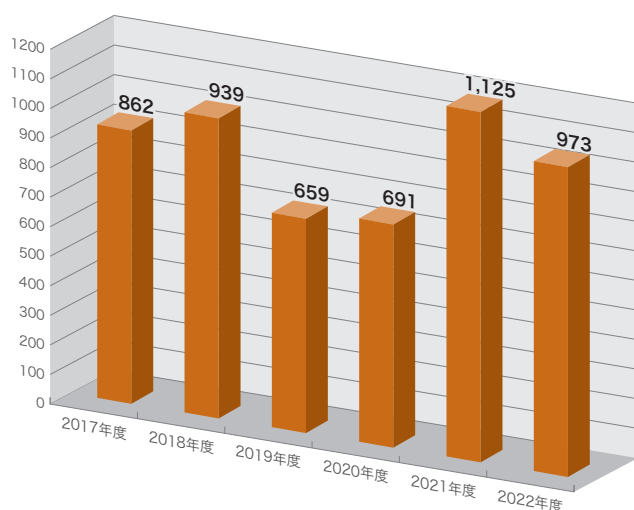
グループ会社 株式会社サンシン旭川スクラップセンター
飯沼金属株式会社
ニイガタ産業振興株式会社
弥生スチール株式会社
北貨運輸株式会社
株式会社富倉産業
大山商事株式会社

許可一覧 産業廃棄物
収集運搬業
処分業
(中間処理)(最終処分)
古物商
金属くず商
倉庫業
港湾荷役事業
保税蔵置場許可
一般貨物自動車運送事業
建設業 等

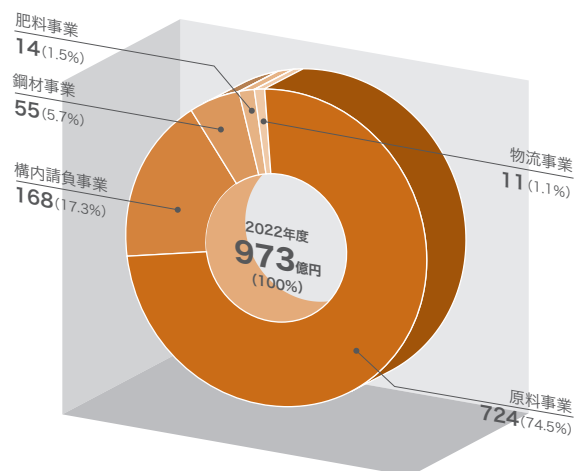
主要取引先 日本製鉄株式会社
山陽特殊製鋼株式会社
合同製鐵株式会社
株式会社伊藤製鐵所
清水鋼鐵株式会社
大阪製鐵株式会社
共英製鋼株式会社
伊藤忠メタルズ株式会社
株式会社メッツコーポレーション

主要取引銀行 三井住友信託銀行
三菱UFJ銀行
みずほ銀行
三井住友銀行
りそな銀行
岩手銀行
農林中央金庫
七十七銀行
商工組合中央金庫

売上高の推移 (単位:億円)



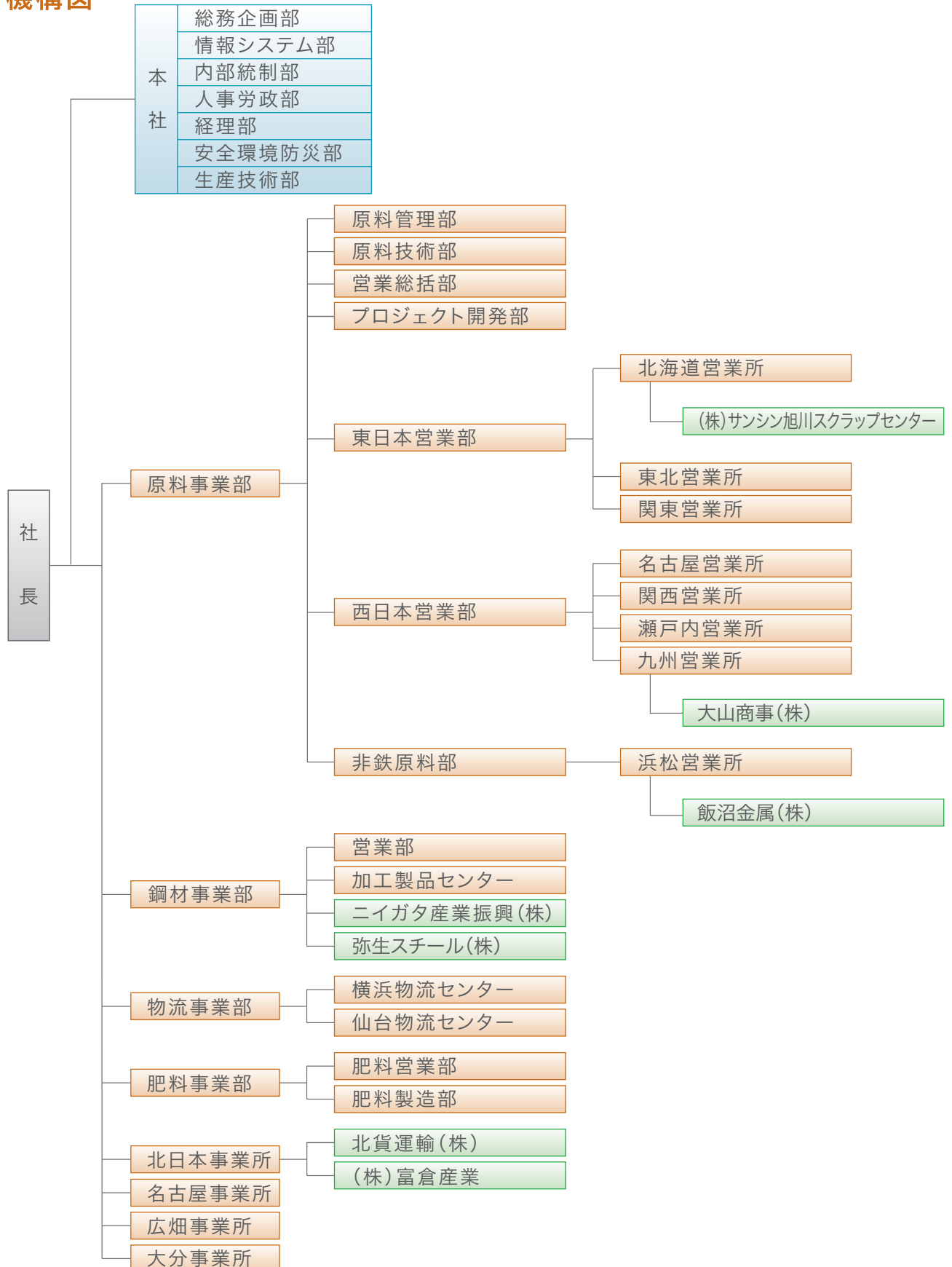
売上高の内訳 (単位:億円)



沿革

- 1911(明44)年 創業者徳島佐太郎が銅鉄商を開業
- 1934(昭9)年 「徳島式水圧プレス機」を考案
- 1935(昭10)年 大阪・名古屋・塩釜に分店開設 プレス機を設置
- 1937(昭12)年 (株)徳島商店設立(現東京都江東区森下)
資本金3百万円
日本製鐵(株)へ鉄スクラップ納入開始
- 1942(昭17)年 日本鐵興(株)に社名変更
- 1944(昭19)年 日本鐵鑛冶金(株)に社名変更
- 1948(昭23)年 産業振興(株) (現社名)に社名変更
資本金1千万円
本社を東京都中央区日本橋本町へ移転
製鉄設備の賠償指定解除に伴い、政府は基礎産業復興促進のための鉄鋼増産政策を立案。鉄屑の緊急確保が必要となり、当社は商工省及び日本製鐵(株)の要請を受けて鉄屑処理加工設備を復旧して対応を開始。
- 1949(昭24)年 古石工場(江東区、のち大富工場に集約)開設
旧戦艦「伊勢」「日向」解体屑化
- 1950(昭25)年 大富工場(現市川工場)開設 日本初の天井走行クレーン装備の鉄屑ヤード
横浜工場(現横浜物流センター)開設
室蘭事業所開設(輪西工場を同時開設 現室蘭工場)
- 1951(昭26)年 釜石事業所開設
札幌出張所開設(現苫小牧工場)
大富工場小名浜出張所開設(現小名浜工場)
大阪営業所名古屋ヤード開設(現東海ヤード)
本社を東京都中央区日本橋通り(太陽ビル)へ移転
昭和26年以降、富士製鐵(株)の室蘭、釜石、広畑各製鐵所構内において製鉄原料、スラグ、成品処理、その他付帯作業等の請負作業を開始。
- 1952(昭27)年 富士製鐵(株)の指定商社となり、商社業務を開始。
- 1953(昭28)年 広畑事業所開設
- 1961(昭36)年 名古屋事業所改組
富士製鐵(株)各製鐵所構内における当社の作業経歴が評価され、東海製鐵(株)の銑鋼一貫工場稼働に伴い、スクラップ処理加工、転炉装入、高炉スラグ・転炉スラグの磁選と肥料化の作業を受注。
- 1962(昭37)年 本社を東京都千代田区丸の内(富士製鐵ビル)へ移転
横浜事業所(現横浜物流センター)、倉庫事業開始(鉄スクラップヤードから 貨物中継基地に転換)
- 1963(昭38)年 富士製鐵(株)の資本参加を受ける
資本金8千万円
メトロデッキの委託加工を開始(横浜営業所、のち加工製品センターに移管)
大阪営業所移転、新ヤード開設(現大阪ヤード)
- 1964(昭39)年 仙台出張所(現仙台物流センター)開設
- 1970(昭45)年 大分出張所(現大分事業所)開設
新日本製鐵(株)大分製鐵所の新設に伴い、大分出張所を開設。当初は焼結用原料や副生鋼材を主に販売。昭和61年水砕スラグの受払作業を開始。
本社を東京都千代田区大手町(日本ビル)へ移転
- 1972(昭47)年 室蘭事業所苫小牧ヤード開設
- 1974(昭49)年 仙台営業所岩沼ヤード開設
- 1976(昭51)年 浜松営業所開設(現浜松工場)
- 1980(昭55)年 資本金3億9千万円
- 1986(昭61)年 東京営業所を市川市へ移転。市川スクラップセンターと加工製品センターに改組
- 1987(昭62)年 産業振興社員持株会社設立
- 1990(平2)年 (株)北海道スクラップセンターをグループ会社化((株)サンシン旭川スクラップセンター 以下「サンシン旭川」)
- 1992(平4)年 (株)皆木勝栄商店をグループ会社化(ニイガタ産業振興(株))
- 1994(平6)年 本社を東京都江東区亀戸(日鐵NDタワー)へ移転
- 1996(平8)年 新日本製鐵(株)広畑製鐵所構内にスクラップ加工設備(ギロチン・プレス)を設置
- 1999(平11)年 弥生スチール(株)をグループ会社化
- 2004(平16)年 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所構内にスクラップ加工設備(ギロチン・プレス)を設置
サンシン旭川八街工場を開設
- 2005(平17)年 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所構内にスクラップ加工設備(シュレッダー)を設置
新日本製鐵(株)の持分法適用会社となる
- 2007(平19)年 組織を2事業部(原料、鋼材加工販売[現:鋼材])、7事業所(室蘭、釜石、名古屋、広畑、大分、東北、横浜)、1事業センター(肥料)体制とする。
- 2008(平20)年 飯沼金属(株)をグループ会社化
関東スクラップセンター、ヤード拡張
- 2010(平22)年 室蘭事業所ダスト処理設備(DPM)稼働
- 2011(平23)年 東海ヤードを本格開設
姫路ヤードを開設
釜石市平田地区に釜石ヤード開設(~2016年)
釜石市災害廃棄物処理事業(試行)をJVにて受託
鋼材中継倉庫事業部[現:物流事業部](横浜物流センター、仙台物流センター)を設置
- 2012(平24)年 八街工場をサンシン旭川から当社に統合
- 2015(平27)年 肥料事業センターを肥料事業部に
- 2018(平30)年 横浜物流センターに第二倉庫を設置
本社を東京都千代田区神田小川町(BIZCORE神保町)に移転
- 2023(令5)年 室蘭事業所・釜石事業所を統合し北日本事業所に。
大山商事(株)をグループ会社化

機構図



役員等一覧

代表取締役社長 米田 寛

常務取締役 井口 博元

取締役 井上 周士

取締役 河村 圭造

取締役 能勢 大伸

上席執行役員 横山 嘉則

上席執行役員 菅原 隆

執行役員 合川 孝史

執行役員 菅家 隆

執行役員 竹内 正守

執行役員 栗田 保

監査役 小玉 亨

監査役 後藤 洋



本社・事業拠点一覧

本社		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	
ダイヤルイン 東京03-5259局		総務企画部……………6801 情報システム部……………6802 内部統制部……………6803 人事労政部……………6804 経理部……………6806 安全環境防災部……………6807 生産技術部……………6808	
原料事業部			
原料管理部		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	03-5259-6809
原料技術部		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	03-5259-6809
営業総括部		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	03-5259-6809
プロジェクト開発部		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	03-5259-6809
東日本営業部	北海道営業所	室蘭工場 〒050-0063 北海道室蘭市港北町一丁目1番11号 苫小牧工場 〒059-1372 北海道苫小牧市勇払278番地2	0143-55-7319 0144-55-3444
	東北営業所	岩沼工場 〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新田300番地 小名浜工場 〒971-8101 福島県いわき市小名浜字中原6番地8	0223-23-3377 0246-54-3545
	関東営業所	市川工場 〒272-0011 千葉県市川市高谷新町10番地7 八街工場 〒289-1124 千葉県八街市山田台868番地2	047-328-1711 043-445-3620
西日本営業部	名古屋営業所	東海ヤード 〒476-0001 愛知県東海市南柴田町トノ割266-15	052-604-1239
	関西営業所	大阪ヤード 〒551-0011 大阪府大阪市大正区小林東一丁目2番8号	06-6554-1321
	瀬戸内営業所	姫路ヤード 〒671-1242 兵庫県姫路市網干区浜田字南新々田1612番地1	079-240-7181
	九州営業所	大分事務所 〒870-0912 大分県大分市原新町15番34号 北九州事務所 〒803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町三丁目1番7号 日鉄物流㈱西日本支店ビル3階 宮崎ヤード 〒880-0851 宮崎県宮崎市港東三丁目1番	097-558-8263 097-558-8263 0985-35-8611
非鉄原料部	浜松営業所	浜松ヤード 〒438-0216 静岡県磐田市飛平松238番地1	053-866-2422
(株)サンシン旭川スクラップセンター		〒079-8451 北海道旭川市永山北1条11丁目55番地の5	0166-48-0036
飯沼金属(株)		〒455-0074 愛知県名古屋港区正保町八丁目16番地	052-382-9811
大山商事(株)		〒870-0018 大分県大分市豊海2丁目4番4号	097-537-4464
鋼材事業部			
営業部		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	03-5259-6810
加工製品センター		〒272-0126 千葉県市川市千鳥町5番地11	047-395-1611
ニイガタ産業振興(株)		〒950-1455 新潟県新潟市南区新飯田2399番地1	025-374-1036
弥生スチール(株)		〒614-8181 京都府八幡市上津屋浜垣内84-1	075-971-1222
物流事業部			
横浜物流センター(恵比須町倉庫)		〒221-0024 神奈川県横浜市神奈川区恵比須町9番地	045-453-6111
出田町倉庫		〒221-0032 神奈川県横浜市神奈川区出田町1-11	045-453-6111
仙台物流センター		〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港一丁目2番1号	022-352-5061
肥料事業部			
肥料営業部	西日本肥料営業課	〒455-0026 愛知県名古屋港区昭和町18番地 昭和メタル第1事務所3階	052-619-6216
	東日本肥料営業課	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目9番地2「BIZCORE神保町」5階	03-5259-6814
肥料製造部		〒455-0026 愛知県名古屋港区昭和町40番地1	052-611-9300
北日本事業所	(室蘭)	〒050-0087 北海道室蘭市仲町12番地 日本製鉄㈱北日本製鉄所室蘭地区構内	0143-44-5334
	(釜石)	〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町23番15号 日本製鉄㈱北日本製鉄所釜石地区構内	0193-22-2211
北貨運輸(株)		〒050-0087 北海道室蘭市仲町12番地 日本製鉄㈱北日本製鉄所室蘭地区構内	0143-44-3366
(株)富倉産業		〒026-0052 岩手県釜石市小佐野町四丁目3番7号	0193-23-3817
名古屋事業所		〒476-0015 愛知県東海市東海町五丁目3番地 日本製鉄(株)名古屋製鉄所構内	052-604-1177
広畑事業所		〒671-1154 兵庫県姫路市広畑区吾妻町一丁目63番地	079-239-1211
構内事務所		〒671-1123 兵庫県姫路市広畑区富士町1番地 日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所広畑地区構内	079-236-1368
大分事業所		〒870-0912 大分県大分市原新町15番34号	097-556-7171

日本全国に広がる、産振の事業ネットワーク

北は北海道から、南は九州まで、産振は全国にひろがる事業拠点をフル稼働し、すぐれた品質と技術を、いち早く各地にお届けしています。このスピード、広いカバレッジ、信頼のサポート力も、産振の大きな強みです。

1 本 社

総務企画部
情報システム部
内部統制部
人事労政部
経理部
安全環境防災部
生産技術部
原料事業部
鋼材事業部
肥料事業部

原料事業部

東日本営業部

2 (株)サンシン旭川スクラップセンター

3 北海道営業所
室蘭工場
苫小牧工場

4 東北営業所
岩沼工場
小名浜工場

5 関東営業所
市川工場
八街工場
船橋ヤード
中央防波堤ヤード
大黒ヤード
市原ヤード
清水ヤード

西日本営業部

6 名古屋営業所
東海ヤード

7 関西営業所
大阪ヤード

8 瀬戸内営業所
姫路ヤード

9 飯沼金属(株)

10 九州営業所
宮崎ヤード
乙津ヤード

11 大山商事(株)

12 非鉄原料部
浜松工場

鋼材事業部

13 ニイガタ産業振興(株)

14 営業部

15 加工製品センター

16 弥生スチール(株)

物流事業部

17 横浜物流センター
恵比寿町倉庫
出田町倉庫

18 仙台物流センター

肥料事業部

19 肥料営業部 東日本肥料営業課

20 肥料営業部 西日本肥料営業課

21 肥料製造部 名古屋肥料工場

事業所

22 北日本事業所

23 北貨運輸(株)

24 (株)富倉産業

25 名古屋事業所

26 広畑事業所

27 大分事業所

